

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)

本研究課題は、近世から近代への移行期の京都における、あらゆる職種に関する人物・住所情報が記載された地誌・案内記類のデジタルアーカイブを進め、産業の立地や集積の地理的分布とその変遷を明らかにするためのデータ基盤の構築を目指すものである。これまでのデジタルアーカイブは、インターネットでの画像公開が主であったが、本研究課題では、地誌・案内記類の画像データベースと、地理情報システム(GIS)の管理・分析機能と連携させることで、オンライン上で主要産業の GIS 地図と原資料を閲覧することができるデジタルアトラスを構築することを目指す。この成果によって、歴史学や地理学といった伝統的な研究分野のみならず、デジタル・ヒューマニティーズの研究基盤や研究事例としても期待される。

5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

2014～16年度の取り組みにおいて、京都の地誌・案内記類の所蔵数で最大規模の一つである、京都府立総合資料館に所蔵された地誌・案内記類および近代期に出版された絵図について、デジタルアーカイブの成果を公開・整備を進め、インターネット上の画像データベースの閲覧とオンラインマップとの連携させたシステムの構築を進めてきた。これまでに公開した資料の点数は、2014年度から合わせて約116冊、撮影カット数では約10,000カットを数える。現在、アート・リサーチセンターのサーバーを利用して公開されている「京都地誌データベース」で閲覧が可能である。

2016年度は、上記の画像データベース構築・拡張についての整備作業を進めつつ、それらをインターネット地図から閲覧するための準備を進めた。本研究では、デジタルアトラスの構築を目指しており、様々な時間断面の商工業者・文化人の居住地分布がわかる地図から、人物が掲載されているページの画像データへとリンクさせることが必要である。一部、試験的に画像の詳細画面からオンライン地図へリンクを追加し、一方で、オンラインマップ上で示された京都の主要産業の地点から画像の詳細画面にリンクを追加した。こうした相互のリンクを作成することで、画像データベースとオンラインマップを相互に行き来できるような仕組みを構築した。

また、近世近代の絵図の画像データをGIS上に読み込み、近世近代京都の歴史地名データベースの作製を進めた。この地名データベースの整備が進むことで、近世近代の地誌・案内記に掲載された人物や住所情報のテキスト情報をまとめたファイルを用意すれば、半自動的にこの仕組みに追加できるようになる。現在、スタンドアローンのPC上で、これを利用して地図を作製することができるようになっている。

なお、2016年度は、これまでの200,000カット(2014年以前の取組みを含めた総数)におよぶ画像データの公開・維持とオンラインマップとの連携を試行することに重点を置き、資金を必要としなかったため、「研究資源活用型」として研究を進めていた。